地質学の範囲だけでは片づきません．　地質学・地形学・土壌学・考古学・生物学・気候学‥‥等々　広い関連科学の協力と総合の上に立ってはじめて　第四紀の自然環境の変せんとその変せんの法則性とを明らかにすることができるでしょう．　それにしても　第四紀の総合的な研究所が　日本にまだ一つもないことは　この分野の発展のために心細いかぎりです．

現在　日本の第四紀の研究を語るには　各地の研究者・教師・学生が自主的に組織している　いくつもの団体研究グループの存在を忘れてはなりません．　関東ローム研究グループをはじめ各地の団研グループは　着実な調査活動によって　多くのめざましい成果をあげてきましたし　今後も第四紀の研究に主要な役割をはたしていくことでしょう．　第四紀について実際に調査をし　自分の手で研究したいという場合　各地のこういった団体研究に参加するのがもっとも有効な方法でしょう．

第四紀研究のもう一つの側面として　最近　建設工事などに伴って　さかんに行われるようになった地下地質の調査があります．　いろいろな機関の手で　ばらばらに行なわれている調査の結果が　学問的に検討をうけ集約されるようになったならば　第四紀学の新たな発展をもたらし　それが同時に地下地質の解明に有効に反映していくと期待されるのですが　現状では困難なことでしょうか．

第四紀については　多くのすぐれた学術書・普及書が出版されています．　たとえば「The Geologic Developments of the Japanese Island」の第四紀の項は最近の研究成果をもっともよく総括したものです．　ここでは　手に入りやすいおもな単行本を列挙して　稿を終ることにしましょう．

参考文献

後氷期の世界	湊正雄	築地書館
地球の歴史	井尻正二・湊正雄	岩波新書
日本列島	湊正雄・井尻正二	岩波新書
第四紀（上）	小林国夫	地学双書
日本地形論	貝塚爽平他	地学双書
東京の自然史	貝塚爽平	紀伊国屋新書

（筆者は地質部）

地学と切手

知床国立公園　　堀内恵彦

北海道の東北端にオホーツク海に突出する幅29km長さ65kmの半島が　知床（シレトコ）半島で　アイヌ語の「シレトク」から転化したものです．　この半島の中央部には千島火山帯に属する　知床岳　硫黄山　羅臼岳　ツニシベツ岳　遠音別岳　海別岳などの火山が連続して山脈を形成し　分水界となっており　この北側は斜里町　南側は羅臼町で　国立公園は　遠根別岳から東北方の面積 413.75 km² の区域で　わが国唯一の原始的景観として　区域の50%以上が　特別保護地区に指定されております．

知床の各山の地形は複雑ですが　硫黄山は現在も活動し　最近では昭和11年に多量の硫黄を噴出しました．この山陵の各所には湖沼が点在し　海岸は　これらの火山が海蝕により削られ　30～100mの断崖が連続し　豪壮さを誇っています．　またこの断崖にはウミウ　ウミネコ　イワツバメ等の海鳥が多く棲息し　崖上にはオジロワシが繁殖し　野鳥の楽園の観があります．

知床は　そのほとんどが原生林で　標高600m以下は針葉樹と広葉樹の混交林　900mまでは広葉樹林　さらに1,200mまでは灌木　それ以上はハイマツと高山植物帯で　羅臼岳・硫黄山の山頂は　各所にお花畑がみられます．

半島の突端は20～30mの海成段丘で　草原地帯となっており　ここには石器時代の遺跡があり　竪穴式住居跡やオホーツク式土器が発見されました．　このほかにも半島各所に遺跡がみられます．　全地域を一度はみる必要のあるところですが　交通その他の関係で　とくにみるべき場所をあげますと　次のとおりです．

知床岬‥‥最先端で入りくんだ大小さまざまの奇岩怪石が散在し　20～30mの断崖の上には　黒百合　ガンコー蘭　ハマナスなどが咲きみだれる大草原が広がりさいはての広漠たる風景がみられます

岩尾別の断崖‥‥北側の海岸　岩尾別付近に10kmにわたる100～200mの海蝕崖がみられます．　これは安山岩の溶岩流台地が海水に侵蝕されたもので　壮絶なながめです

知床五湖‥‥岩尾別の知床連山山麓に点在する湖で　天然林におおわれた　五湖それぞれに趣の異なる仙境です

羅臼岳‥‥知床の最高峰（1,661m）で山頂からは西にオホーツク海を　東には国後島をながめ　知床の原生林や　遠く網走から阿寒の山々を望むこともできます

羅臼湖‥‥半島最大の湖で　周囲は湿原となっています

以上夏期には南北一周の観光船も運航され　順次観光の便もはかられつつあります．　ぜひ一度は訪れたいものです．　国立公園指定は　昭和39年6月1日　切手は本年11月15日　10円（羅臼湖からの羅臼岳）　5円（斜里海岸からの硫黄岳）です．